

翼の接合術を行った白鳥の一年間の観察

どうぶつの病院

望月明義

平成16年12月17日

早朝、犀川ダム湖上流500mの中州で左翼が傷つきうずくまっている幼鳥が発見され保護、直ちに「どうぶつの病院」に搬入された。

メス、6kg

検査の結果、左のとう骨、尺骨の骨折。また筋肉の損傷も重度。

左の胸部に鉛散弾一個。

多量の出血による貧血が著しい。

処置

イソフルラン麻酔下にて尺骨をムカデプレートで固定
胸部の鉛散弾摘出。

カテーテルによる胃内への補液。

抗菌製剤の注射

事故の原因

犀川を横断する高圧線に激突したと思われる。

鉛散弾は約一週間前に撃ち込まれたもので飛行に影響を与えたものと思われた。

平成17年01月12日

退院

食欲は入院3日目から旺盛。退院時、骨折部はとう骨、尺骨を含めて硬いこぶ状になっていた。

長いケージレストのため浮くために必要な羽に油を塗る羽づくろいの行動が出来なかったため、穂高のビニールハウスに移動。(一昨シーズン断翼術を行った白鳥が保護されている)

平成17年01月24日

犀川の保護された場所に放鳥。

すぐに仲間となじんだ。羽ばたいたり水上を走ることとは出来ても飛ぶことは出来ない。手術あとをつついて何度か傷口が開いた。

幼鳥の赤い嘴が濃い黄色に変わっていくのが他の幼鳥

と比較して遅れていた。(貧血によるためか)

北帰行の時期

仲間が何度も飛行を促すが、助走のみで舞い上がれない。北帰行が一ヶ月くらい遅れ、60羽の集団が30になり6羽になり3羽となったが何回か旅の途中から引き返し北帰行を促した。 結局

平成17年05月15日

1羽となってしまった。 北帰行が始まると野生に目覚め餌場にはよって来ない。

平成17年06月08日

北帰行をあきらめたか。この日から明け方5時に短時間だけ餌場に来て餌をもらう。羽ばたいた時に左の風切りの羽が欠損していて痛々しい。

平成17年お8月04日

換羽の時期になり 翼の羽根が抜けて貧相

平成17年08月16日

換羽終了、完全に生えそろった。怪我で欠損した部分にも羽根が発生し立派な姿になった。

平成17年10月01日

9月25日あたりからのぞきはじめていたムカデプレートが完全に脱落。

平成17年10月12日

初飛来1羽

平成17年11月02日

初めて飛行した。

以上を17年10月14日放映のフジテレビ、スーパーニュースのビデオと併せて説明します。